

鎮座地 多治見市御幸町2丁目99番地
例祭日 10月15日または、その直前の日曜日
御祭神 素戔鳴尊(主祭神、天照大御神の弟)、八王子神、八幡大神
相殿 恵比寿大神
境内社 多賀神社、稲荷神社、御鋤社
御神徳 家庭円満、厄除、安産、家業繁栄、災禍徐、延命長寿
由緒 奈良時代又は平安時代に、田只味郷(旧多治見村)の産土神として、田只味明神(八王子神)を祀り、槇ヶ根(記念橋辺り)に鎮座しました。



社殿全景(東北面)

鎌倉時代に八幡大神(清和源氏の氏神。武人に篤く信仰されました)を合祀し、土地の豪族多治見氏を始め多くの崇敬を集めて社殿も新設し、神威も加わりました。正中元年(1324)、後醍醐天皇の命を受けた多治見国長公の挙兵失敗(正中の変)に伴い、次第に衰微しました。室町時代(應永年中 1400年頃)に至り、主祭神として素戔鳴尊を勧請し、新羅明神と名を新たに、場所も現在の御幸町に遷座しました。その後、明治時代に新羅神社と改めました。

建物 社殿は、嘉永元年(1848)に建立されました。本殿と拝殿を幣殿でつないだ江戸時代後期の典型的な権現造りの様相を示しています。技巧が凝らされた構造です。例：組み物(四手先、海老虹梁)

尾張藩御用彫物師、早瀬長兵衛一族の手により、火伏・吉祥・守護・平和・仁愛などの意味を表して、龍、獺、獅子、鳳凰、蟹、仙人、花、鳥など数多くの素木作りの彫刻が施されています。

- ・拝殿前の陶製灯籠2基は、安政5年(1858)に奉納。

平成18年(2006)3月に、新羅神社社殿 附陶製灯籠・棟札は、江戸時代後期の文化を今に伝える建造物として多治見市の有形文化財に指定されました。

(多治見観光ボランティアガイド 大嶽 裕)



深夜からにぎわう「初桑びす祭」



須永啓之 宮司

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本紙面に掲載してあります、税に関する生徒の作文を読ませていただきました。税金は、人々の暮らしを豊かにする為に必要で、税金を払っていることに誇りを持ちたい、という表現には感銘を受けました。21世紀に入って、すでに4分の1に差し掛かりました。新しい技術やサービスがどんどん生まれ、人材不足や省力化、税務やさまざまな場面でのデジタル化など、企業の活動はめまぐるしく変化していていると感じます。これらの変化に上手についていながら、税金を納め続けることができるよう、精進してまいりたいと思います。

広報委員会 林 浩司

発行所 一般社団法人 多治見法人会
 〒507-0831 多治見市新町1丁目18番地
 電話 (0572) 23-5538
 FAX (0572) 25-0866
 URL <https://www.tajimihoujinkai.jp/>
 e-mail: info@tajimihoujinkai.jp

編集 一般社団法人 多治見法人会 広報委員会

印刷所 丸理印刷株式会社
 岐阜県瑞浪市学園台5丁目1番地の1
 電話 (0572) 68-7111

広報委員会

担当副会長	大嶽 利彰 (多治見)	委員	塚本 修久 (瑞浪)
委員長	高垣 守宏 (可児)	〃	伊藤健太郎 (瑞浪)
副委員長	松井 啓至 (瑞浪)	〃	藤井 辰巳 (可児)
副委員長	若尾 宗徳 (可児)	〃	矢島 幹也 (可児)
委員	田中 勝也 (多治見)	委員(青年部会)	田財 千裕 (多治見)
〃	林 浩司 (多治見)	〃	若尾 淳一 (多治見)
〃	河地 勝彦 (多治見)	委員(女性部会)	土屋みゆき (多治見)
〃	加藤 海蔵 (土岐)	〃	水野ひとみ (多治見)
〃	加藤 晃一 (土岐)		